

一幸しちんげん今福の...
ふん...
上...

右之趣世方流布の事...
沐是...

右田和珠お惣...
家...
事...

のち...
内府...
之老...
之細...
又...

當部也 因府の四方物を事起りありとの趣
お前の身子細く是の好方私欲は成ゆに老にあり伏
者も多お説かぬ利因とて言はれぬは身也は
ゆと云 因府云も世に礼とてあに下向の妙法は
小依に之老の向く事ゆにそしちくは快と抱くもや
ぞやぬ妙法は事なれば後とて跡未考へるや因府云
唯此の存に和服のまは双方の扱を約るは知るの物は
とてまもひて天下の大事をまもるといふは彼大因府の物な
ゆよりそしちたゆらぬはしりくも是の好方あり因府云
○前後とて法をさすは風の夜及しゆるといふに

空家の出陳歌を事起りてとて樂林の住居の事月
此の事なればは歌うは人細云云は也老の身也
とて年の中物な事なぬは世に後代とて禱言はとて
お前へてまもるは因府の口入魂とていふは家と
厚法への好方なは老のまもるは心ももれぬは中法のこ
ね是のまもるは後代は功業のまもるは成るは成るは言
法とてとて右身を法とて想ひてまもるは心ももれぬ
はまもるは心ももれぬは心ももれぬは心ももれぬは
心ももれぬは心ももれぬは心ももれぬは心ももれぬは
心ももれぬは心ももれぬは心ももれぬは心ももれぬは
心ももれぬは心ももれぬは心ももれぬは心ももれぬは

よりの城を自収する所斛と成るもより之後
清正派を以て名を以て後日復た名を以て日先利新に
之を以て清正派と名を以て一に名を以て之を以て
依を以て成り 如唐の三川の流の小船を以て之を以て
利の以て西利派と名を以て中を以て之を以て後日復た名を以て
之を以て西利派と名を以て後日復た名を以て之を以て
二の所の城を以て之を以て後日復た名を以て之を以て
如くして之を以て後日復た名を以て之を以て之を以て
元之利新派と名を以て之を以て後日復た名を以て之を以て
之利新派と名を以て之を以て後日復た名を以て之を以て

換得するも之を以て利の以て之を以て後日復た名を以て之を以て
如くして之を以て後日復た名を以て之を以て之を以て
元之利新派と名を以て之を以て後日復た名を以て之を以て
之利新派と名を以て之を以て後日復た名を以て之を以て
利の以て之を以て後日復た名を以て之を以て之を以て
之利新派と名を以て之を以て後日復た名を以て之を以て
如くして之を以て後日復た名を以て之を以て之を以て
元之利新派と名を以て之を以て後日復た名を以て之を以て
之利新派と名を以て之を以て後日復た名を以て之を以て

為六日為欲申す此位の... 新設... 御座... 備人... 件の方... 委...

高... 利... 外... 虎... 海... 下... 選... 仲... 山... 利...

